



図書館だより



開館10周年記念 プレイバック

「郵政解散」に端を発した衆議院議員選挙の投票日だった2005年9月11日。この日は、東京弁護士会・第二東京弁護士会合同図書館（以下、合同図書館という）にとって10回目のバースディでもありました。

遡ることちょうど10年前の1995年9月11日。それまでそれぞれの会の建物にあった図書館は、長く議論を重ねた結果、東弁と二弁がひとつの図書館を創設することになり、この日、弁護士会館7階では合同図書館の開館記念式典がとりおこなわれました。

合同図書館のさらなる発展を願い、10歳の誕生日を祝して、10年前に描かれた「想い」を振り返ってみましょう。

「こんぱす」より

—1995年（平成7年）10月20日 東弁新聞第246号掲載

「旧会館よありがとう」10月2日、東弁旧会館のお別れ会があった。それぞれの感慨を胸に会員は続々と集まった。会のあとは館内を見まわった。廃墟のような図書館跡も見た。

東弁図書館は1911年（明治44年）724冊の図書でスタートした。木造2階建の2階部分約69m²。設計がよかったので、関東大震災でも倒れなかった。1925年鉄筋コンクリート造2階建の別館が完成、その1階約165m²が図書館になった。その後1932年に旧会館ができた。

敗戦の年の3月20日と5月24日の東京大空襲で霞ヶ関一帯は焼夷弾の雨に見舞われ、周囲の建物は殆ど消失した。東弁会館にも相当数の焼夷弾が投下されたが防火責任者赤塚隆太郎が挺身防火につとめ事なきを得たという。図書もすべて無事であった。

戦後図書館への期待と需要は高まった。1957年3月

地上3階地下1階の新館が完成し、その2・3階各約127m²が図書館になった。これが旧図書館である。1974年から司書を置き78年図書館長制をとった。

新会館には1つの大合同図書館を、という夢は実らなかったが、東弁・二弁合同図書館は完成した。旧図書館があったからできたのだ。延面積約1194m²、閲覧席数は119席。明るく広い。今昔の感に堪えない。ここは我々のこころの文化センターだ。これを充実させ発展させよう。

開館宣言（抜粋）

合同図書館は、弁護士の使命を達成するために必要な情報をよりの確に収集し、図書館の有する図書、情報が会員に十分に利用されるよう献身的に努力しなければなりません。そのためには、利用者からの働きかけを待つだけでなく、合同図書館から情報を積極的に発信する必要があります。

また、他の弁護士会の図書館、図書室との協力関係を従前にも増して一層強化していかなければなりません。

合同図書館は、図書館としては小規模な部類に属するとしても、このような努力を私たちがたゆみなく積み重ねていくことによって、在野法曹の法律専門図書館として独立性をもった、より充実した図書館として発展させていかなければなりません。

合同図書館がこのような独自性を確立し、より充実性を増したとき、東弁・二弁会員の活動に奉仕するだけでなく、社会的にも極めて意義ある存在として輝きを増すことになるでしょう。

（東弁・二弁合同図書館事務局 柳澤 秀樹）